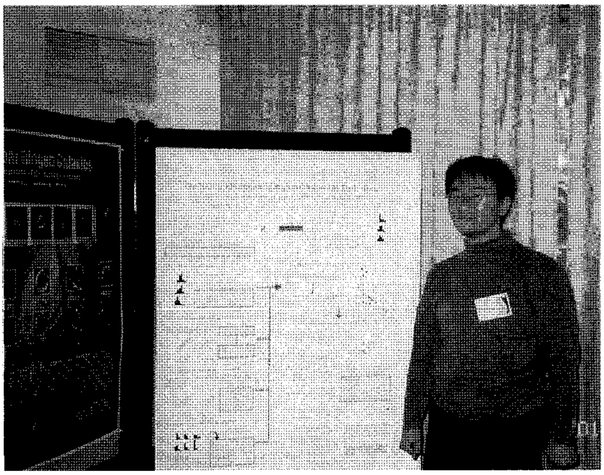
日本天文学会 早川幸男基金による

渡航報告書

The Central kpc of Starbursts and AGNs: the La Palma Connection May 7 - 11, 2001



ポスター前にて．隣のポスターがかっこいい….

スペインのカナリア諸島で5月7日から一週間に渡って開かれた，「The Central kpc of Starbursts and AGNs」という研究会に参加してきました．当該分野の著名な方々が大勢参加されており，非常にエキサイティングな研究会でした．この研究会の目的は銀河中心部の構造や物理状態，またそれらと各種活動性の関係を議論することでしたが，観測屋（電波から赤外，可視，X線まで）と理論屋が各々の立場で様々な議論を展開していたおかげで，銀河中心部の現象について多面的に考えることができました．個人的に特に印象深かったのは，XMM-NewtonによるAGNのX線スペクトル観測の報告でした．まるで可視スペクトルかと目を疑うような高S/N，数多くの輝線を分離して測定できるだけの波長分解能．なんだか時代の変わり目に立ち会っているような，奇妙な感慨を味わいました．

この研究会で私は，AGNにおける電離領域とダストトーラスの関係についてポスター発表を行いました．私にとってこの研究会は初めての海外での研究会だったため，どうすれば周りの参加者に自分の話を聞いてもらえるのだろう，どうすれば議論できるのだろう，と不安ばかり抱えての参加でした．しかし，いざ会場に出向いてみると，参加者同士がみんなとても気さくに話しかけ合っていることに驚かされました．私にもいろんな若手研究者が「お前のポスター読んだぞ！　ちょっと説明してくれよ」とか「あんたの話がホントならX線の吸収がこうなってるはずだけど，どうなんだ？」などと気軽に話しかけてきてくれて，すっかり嬉しくなってしまいました．

慣れというものは恐ろしいもので，だんだんと自分から周りに話しかけていくコツが分かってきました．興味深い結果や自分の研究に深く関わる研究成果の発表があれば空き時間に質問してみたり，普段論文を読んでいて疑問に思っていた事を著者に直接(!)ぶつけてみたり….私のたどたどしい英語にもみんな嫌な顔一つせずにつき合ってくださり，笑顔で答えてくれました．顔見知りになった人とCoffee Breakの時間に一緒になって「プロポーザルが当たらなくってねぇ…」などと愚痴をこぼしあったりするのも楽しいひとときでした．そんなこんなで，非常に充実した日々を過ごす事ができました．

この研究会を通して，意外にも自分の論文を読んでくれている人がいることや，自分の意見に興味を持ってくれる人がいることを知り，大きな励みと自信を得ることができました．このような貴重な体験をすることができたのも，早川基金による援助があってのことです．早川基金に対して深く感謝すると共に，一人でも多くの若手研究者が早川基金の援助を受けられるように，早川基金がますます発展することを強く願っています．

長尾　透

（東北大学大学院理学研究科天文学専攻）